【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和４年度学校評価 計画

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	唐津市立西唐津小学校

1　前年度 評価結果の概要	・基礎学力向上が本校の重点課題と考える。前年度に一定の評価が得られたことから、今年度も引き続き「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善、授業研究を行い、基礎学力の定着をもとにした主体的、対話的に学ぶ児童を目指していく。 ・前年度までの取組により児童の豊かな心が育ってきている。今年度も引き続き、豊かな心の育成を重視し、定期的にアンケートを実施し、必要に応じて声かけを行いながら児童に寄り添い、豊かな心の伸長を継続して取り組む。 ・基礎的な体力向上をねらい、感染予防対策を講じたうえで外遊びの奨励を続けてきた結果、多くの児童が元気よく外遊びに興じる姿が見られている。今後も保健体育部を中心に児童の健康安全な生活の取組を継続していく。また、「食」に関しても、栄養教諭を中心にした食育指導を推進継続していく。 ・本校の教育課題の達成に向けて「保護者・地域等との連携」を掲げている。そのために様々な体験的活動を仕組み、その教育効果を更に高めてきている。今年度も保護者や地域との連携・協働を進める。
2　学校教育目標	**ふるさと「西唐津」を愛し、心豊かに、たくましく生き抜く児童の育成**
3　本年度の重点目標	知：やる気⇒①子どもが活躍する授業づくり　②基礎基本と学習習慣の定着　③学習規律と学習意欲の確立　④新時代に対応した教育の確立　⇒『学力向上に積極的に取り組みます』 ②徳：ほん気⇒①温かい学校・学級づくりの推進　②基本的な生活習慣の育成　③特別支援教育の充実　④体験活動の充実　⇒『思いやりの心を持ち「人・もの・こと」にかかわる心を育てます』 ③体：げん気⇒①体力づくりの推進　②健康指導の充実　③食育の充実　④危機管理体制の確立　⇒　『安全・安心な学校づくりに取り組みます』 ④保護者・地域等との連携を推進する。～チーム西唐津の推進～

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善による学力向上対策。 〇寺子屋教室、補充学習による基礎基本の定着	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80％以上とする。	・定期的に校内研修会等で、マイプランの進捗状況を確認する。また、他の学年の取組状況を共有する体制を構築し、切磋琢磨して更なる取組の促進を図				・		・	教務 研究主任
	●「授業づくりステップ1・2・3」に則った授業形態を実践による授業実践。 〇「学びのスタイル」チェックシートを活用した学力向上のPDCAサイクルの確	●授業づくり1・2・3チェックシートで「ステップ3（深化）」の数を3つ以上とする。 〇学びのスタイルチェックシートでA評価を、5項目以上とする。	・一人一人の教師の思いを大切にしながら、足並みを揃えるところは揃え、学校全体として授業力・教育力を高めていく。				・		・	
●心の教育	〇『出会って、かかわって、つくりあげよう～尊重し合う友だち関係づくりをめざして～』をテーマに豊かな心の育成。	〇「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか。」について、肯定的な回答をした児童が85％以上とする。	・縦割り活動やボランティア活動を通してお互いを思いやる経験を積めるようにする。 ・児童の善い行いに気づいた教師が「ほめほめカード」を書いて掲示し、児童のよさを認める温かい雰囲気作りをする。 ・ふれあい道徳や通信による保護者との連携。		・		・		・	人権・同和教育担当者 道徳推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実とともに「いじめの見逃し0」の体制構築。	〇いじめアンケートや毎月初めの「西小アンケート」の結果をもとにいじめの早期発見と見逃し0に努め，担任，生活主任，SC，SSW等と連携して迅速・適切に解決に当たり、再発防止に努める。	・日常の児童観察や毎月の「よい子アンケート」等で、児童の状況・状態の変化に気付く。 ・気になる児童については職員同士で密に情報交換を行う。 ・必要に応じてSCやSSWとも連携し、よりよい方向性を見出す。		・		・		・	教育相談担当者 生活部主任
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組むキャリア教育の実践。	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童（小学6年生）85％以上とする。	・ 地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を各学年、年3回以上実施する。 ・キャリアパスポートを計画的に活用する。		・		・		・	教頭 教務
●健康・体つくり	〇『心身ともにたくましい西唐津の児童の育成』をテーマに運動習慣の改善と定着化。	〇外遊びや体力作りに関する児童用アンケートを実施し、その達成率を90％以上にする 〇運動前後における自己の健康管理の意識を確実にもたせる。	・ 体育委員会からの放送や担任からの呼びかけを継続し外遊びを奨励する。 ・体育学習の工夫(カリキュラムの工夫)を行い、体育の授業や体を動かすことが好きな児童を増やす。とともに、健康観察カードによる健康管理に努める。		・		・		・	保体部主任 給食指導担当者 栄養教諭 生活部安全教育担当者
	〇「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」をテーマに学校における食育を推進。	〇「健康に食事は大切である」と考える児童90％以上とする。	・早寝、早起き、朝ご飯の取り組みを家庭と連携して行い、望ましい食生活を身に付けさせる。 ・定期的に食生活アンケートを実施す		・		・		・	給食指導担当者 栄養教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と職員の時間外勤務時間の削減。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週月曜日を定時退勤日とし、全職員で声を掛け合う。 ・校務サーバーを整理し、これまでの文書データを効果的・効率的に活用できるようにする。 ・校務を整理し、諸問題に対してチームとして対応できるようにする。		・		・		・	教頭

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
〇特別支援教育の推進	〇共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの充実と環境の整備。	〇各学期初めに、児童の活動が見える教室環境を整える。 〇2学期以降に、特殊音節などのアセスメントを行い、必要な支援につなげていく。	・各教室のまなびやすい環境作りを進める。特に特別支援学級においては、仕切り板の活用など個に応じた場の設定を行う。 ・アセスメントをもとに、必要な支援につなげていく。		・		・		・	特別支援教育 コーディネーター
〇地域連携・幼小中連携	〇小中学校9年間の一貫した授業形態による小中連携の推進。	〇「授業づくり1・2・3」を活用した主体的・対話的な学びを取り入れた授業を実践したと答えた教員80％以上。	・中学校との連携は9年間というスパンを見据えながら計画を立て、内容の充実も図っていく。 ・年3回以上、小中交流会を実施し、「授業づくり1・2・3」を活用した主体的・対話的な学びを取り入れた授業を公開する。		・		・		・	教務　教頭

●･･･県共通　〇･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・